平成 27 年度

協議事項資料 No. 6-4

ＪＡ長野県食農教育優良組織表彰

受 賞 組 織

JA 松本ハイランド
女性参画センター
運営会議

平成２８年１月２７日

長野県農業協同組合中央会

１．取組み内容

<table>
<tr><td>①</td><td colspan="2">実施主体</td><td colspan="2">JA 松本ハイランド女性参画センター運営会議</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td colspan="2" rowspan="2">活動連携組織
（組合員組織含む）</td><td>連携組織数</td><td>５組織</td></tr>
<tr><td>連携組織
（組織名を記載）</td><td>女性部、若妻大学ＯＢ会、助けあい組織「夢あわせの会」、くらしの専門委員会、生活指導普及員および女性理事
（これらの組織は、女性参画センター運営会議の構成メンバー）</td></tr>
<tr><td>③</td><td colspan="2">参加者数</td><td colspan="2">９５０名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">④</td><td rowspan="3">内　　容</td><td>時期</td><td colspan="2">平成２７年８月２２日</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="2">生産者と消費者が交流しながら地域の食や農について考え、地産地消を地域へＰＲする</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="2">女性参画センター運営会議を構成する５つの女性組織が、イベント「よい食パク博」を開催。
当ＪＡ産のコシヒカリ「みどりの風」を炊いたごはんに参加者が好みの具材を入れて自分でおにぎりをつくるコーナーをはじめ、地元産のたまご１５０個を使って童話「ぐりとぐら」に登場する巨大カステラを再現するイベント、新鮮な地元野菜をディップソースで味わうコーナーなど、さまざまな食と農にかかわるブースを出展。地域住民に地産地消をPRする。</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td colspan="2">事業開始年</td><td colspan="2">平成２１年</td></tr>
</table>

２．活動ＰＲ

■イベント名：よい食パク博

⇒生産者であり消費者でもある女性の視点から「食の安全安心」と「地産地消」の大切さをＰＲしようと、平成２１年に初めて企画。当初、食と農についてのセミナーを開催予定だったが、生産者と消費者が互いに交流を深めながら地域の食や農業について考える場にしようと、参加型のブースを設置したイベントとして開催。

■主　　催：ＪＡ松本ハイランド女性参画センター運営会議

⇒協同活動や運営に女性の持つ力を発揮してもらおうと平成２０年に全国で初めて設立。女性理事をはじめ女性部、若妻大学ＯＢ会、助けあい組織「夢あわせの会」、くらしの専門委員会、生活指導普及員の５つの女性組織代表者とＪＡ女性職員で構成している。ＪＡ事業への女性参画の推進や農村女性の起業と地域づくり、女性組織のネットワーク化などさまざまな事業や活動を展開している。

■内　　容：地域の食・農・地産地消への理解促進を図る様々な企画、出展

○日本人の主食であり、「いのち」の源である、米の大切さを感じてもらうため、ＪＡ産のコシヒカリ「みどりの風」を炊いたごはんに参加者が好みの具材を入れて自分でおにぎりをつくるコーナー
○地元産のたまご１５０個を使って童話「ぐりとぐら」に登場する巨大カステラを再現するイベント
○新鮮な地元野菜をディップソースで味わうコーナー
○「お茶わん１杯のごはんの中にお米は何つぶあるか」といった食と農に関わるクイズラリーの実施による、地元農業への理解促進
○昨年からは、男性理事によるブース出展も実施
○屋外では、搾乳体験ができる「モーモーヒップ」を設置し、体験を行った子どもに牛乳をプレゼントし、畜産への理解促進を図る他、女性部がとれたての野菜を軽トラックなどの荷台で販売する「軽ットラ市」を実施。
○その他、さまざまな食と農に関するブースを出展

■来場者について

○来場者はほとんどが親子連れ。また組合員以外の来場者が７割を占め、地域住民へ農業や地産地消の理解を醸成する重要な場となっている。

○初開催の平成 21 年には 300 人ほどの来場者であったが、7 回目となる平成 27 年の来場者は、3 倍以上の 950 人まで増加をしている。

○来場者アンケートの結果では、「ＪＡを身近に感じることができてよかった」「地元にあるいろんな味を発見することができた」「地元産の食材のよさを改めて感じた。今後、地産地消を心がけたい」といった意見が寄せられ、農業・ＪＡ・地産地消への理解促進に結びついている。

■その他

○ＪＡグループが朝日新聞出版に制作協力して作成した、アエラムック企業研究シリーズ「ＪＡ ｂｙ ＡＥＲＡ」の取材を受け、掲載。

○１０月に開催された JA 全国大会の会場で活動がパネル展示されている。

３．活動写真

親子連れでにぎわうおにぎりづくりのコーナー。お米は地元産コシヒカリ「みどりの風」を使用

地元産の卵により、童話「ぐりとぐら」の巨大カステラを再現するイベントは、小学生が生地作りから参加する。先着 25 人の参加枠は、イベント開始と同時に埋まってしまう。

特注のフライパンを使って焼き上げ、ふたを開けると、甘い香りが充満し、大きな歓声が上がった。

モーモーヒップ搾乳体験の様子

新鮮な地元野菜をディップソースで味わう

ＪＡ松本ハイランド（長野県）

組合員組織の活性化で地域を盛り上げる

前日からの雨が少し残る空模様だったが、この日行われる「よい食パク博」会場のＪＡ松本ハイランド駐車場前には、すでに家族連れを中心に50人ほどの列ができていた。

「よい食パク博」がスタートしたのは、２００９年。以降年１回のペースで開かれ、15年で７回目になる。主催団体名からもわかるように、女性主体で企画運営をすることが特徴だ。実際、イベントに携わったスタッフ１６０人のうち、女性が１４０人を占めた。この日行われた18もの企画はすべて、女性たちが自ら考え、形にしたものだ。

現在、女性部の大半を60～70代が占め、多くは農家の主婦だ。一方、その下の世代は農家世帯が少ない。農家ではない人でも参加しやすいよう、多様なライフスタイルに対応できる組織を用意しており、料理や野菜づくり教室などを開催するとともに、女性部の活動にも参加できる「緩やかな」つながりを持たせた。世代を超えた「女子力の輪」が着実に広がろうとしている。

©2015 Asahi Shimbun Publications Inc.
出典：ＪＡ全中